

「福澤先生のジェンダー・フリー」

児研三田会会長 中川 眞 弥

今年には福澤諭吉没後100年にあたり、慶應義塾では「世紀をつらぬく福澤諭吉」と題する記念展を催しました。この展示会は大好評で二週間の会期中15,880人ももの入場者があったそうです。中には二度三度見に行行かれた方々もあったようで、私も「いくつか見落とししたなあ」と後で気付いて再度見に行きました。福澤先生に興味を持つ向きには大変に面白い展示会でした。展示は福澤の思想と行動、現代への発信が何んであるかを七つのゾーンに分けて分かりやすく工夫をしてありました。

その第五ゾーン「ジェンダー・フリーをめざして」の展示を担当した西澤直子さんは、1983年卒の児研メンバーです。現在は慶應義塾大学福澤研究センターの嘱託として一月から出版が始った福澤諭吉書簡集の仕事に忙しい日々を送られています。西澤さんは福澤先生の「女大学評論・新女大学」の草稿を調べて、福澤先生の主張は、新しい女性論であると同時に男性論ともなっていて、男女ともに旧規範からの解放を説いていると指摘しています。例えば「新女大学」では、父親の育児参加について、子どもの父たる者は妻の妊娠出産の苦勞を分かち、養育に協力するべきで、他人の目を気にして協力できない男性は「勇気なきばかもの」と記されているそうです。ジェンダー・フリー実現の先駆者福澤諭吉の考えは、男女共生をめざす現代社会の問題として今こそよく考えてみたいことのひとつです。